カリキュラムづくりと総合学習部会

I　研究主題　　豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成
～総合学習の可能性を今，社会へ発信しよう～

II　主題設定の理由

「総合的な学習の時間は，各学校で目標や内容を設定する。もちろん教科書もない。このことは一見難しさや大変さを感じさせる。しかし，地域や学校，児童の実態，特色に応じた各学校独自の学習活動を展開することができる。カリキュラムを編成し，実施する。そして，それを見直し，改善していく。まさにカリキュラム・マネジメントの力が必要となってくる。総合的な学習の時間に取り組む教師は，自らの足で教材を開発し，自らの手と頭で指導計画を作成し，授業を生み出していくのである。これからの時代に求められる教師の姿が，そこにはある」（今，もとめられる力を高める総合的な学習の時間の展開文部科学省　H１２２）

改訂学習指導要領でも，「総合的な学習の時間」の必要性・重要性が再確認され，教育課程上に明確に位置付けられることとなった。知識基盤社会やグローバル社会においては，課題発見・解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力などの実社会や実生活で活用できる能力を身につけさせるために，総合的な学習の時間を探究的な学習とすることが求められている。

その根底には，学校外から，知識基盤社会化・グローバル化などの社会変化や企業での即戦力に対する需要の高まりなどの現状がある。しかし，このような中にあっても，私たちは，子どもたちに「本当につけさせたい学力」とは何かを改めて問い直し，自主創造的な教育実践を積み重ねることで，子どもたちの学びたいという意欲と「ゆたかな学び」を保障していく必要がある。

学びやすい，そして発展性のある，質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは，私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ，教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え，もし子どもがつまづき，理解が十分でないところがあるとすれば，カリキュラムや授業プランを工夫して，その内容や方法を創りかえる必要がある。すべての子どもたちが，学び合いの中で，「学びの意欲」を喚起できる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために，日々目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究することが求められている。

自ら学ぶ視点や展望が自覚できる評価へ，多様な子どもたちが学び合える「場」づくり，自主的な活動を通した人権学習など，子どもたちの「ゆたかな学び」を保障するカリキュラムづくりに取り組んでいくことが必要である。

昨年度までは，総合学習を中心に実践的な研究を行ってきた。今年度は，教育課程とキャリア教育の関わりについても研究を行っていく。

子どもたちの心を豊かに育てるために，仲間の実践に学びながら，常に子どもたちの実態，地域の実態等を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたいと考える。さらに，

子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために，子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで，本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として，研究実践に取り組んでいくこととした。

Ⅲ　研究の内容

・地域素材の教材化
・総合的な学習の時間や教科に関わってのカリキュラムづくり
・教育課程とキャリア教育の関わり
・教育課程と特別支援教育
・個人的な実践の報告
・新教育課程に向けての情報交換

Ⅳ　研究の成果と課題

1　成果

・授業研究では，５年生の総合的な学習「勝沼の今・昔・未来」に取り組んでもらった。その実践から，主体的な学びと地域に愛着をもちよりよくしていこうという気持ちを育むための支援・指導の在り方を学ぶことができた。

・各部員の実践から，子どもが自らの課題に意欲的に取り組めるようするための導入や学ぶ場の工夫を交流し合うことができた。

・助言者からも資料提供をしていただいたり，研究実践について紹介したりしていたき部会の研究が深まった。

・学力向上パイロットスクール事業指定校の日川小学校の研究実践について報告していただき，活用学習とはどんな学習か，習得型の学習とのちがい，実践の様子や読解力について学ぶことができた。

・部員数が少ないので，発言しやすく研究に広がりや深まりがあった。

・福島県の原発事故について教材化という視点で話し合った。被害にあった方の人権の配慮すると教材化はできないだろうという結論に至った。防災教育という視点で地震等について指導する必要はあるという意見が出された。

2　課題

・部員が少人数で固定化されているので，多くの先生方に加入していただき，さらに研究内容を広げたい。

・キャリア教育と教育課程の関わりについて，研究が十分できなかったので，次年度は充実させたい。

（部長　小野紀男）